

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	愛知みずほ大学短期大学部
	大学等名1(代表大学等)※カナ	アイチミズホダイガクタンキダイガクブ
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	生活学科
	担当教職員名・役職	中島和成 キャリア指導室長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	13
	受入企業等数	6
	受入企業等名	愛知県学校給食会、スズキ自販中部、アクセス、エスワイシステム、陸上自衛隊、三和梱包運輸
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	社会人の考え方や行動を学び実習先で求められる実践的な能力を身に付け、自信を持って周囲とコミュニケーションが取れるようにする。又インターンシップにとどまらず、就職活動にもつながる社会常識やマナーを取得する。本学のインターンシップはカリキュラムと実社会を結ぶという役割があり、これにより学生は、「社会人としての基礎力」[学ぶことと社会でつながる関係性]を理解し、インターンシップの取組み意欲を向上させる事をキャリア教育の目的としていく。愛知県中小企業家同友会と連携し課題に対し、グループワークを行います。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年生
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1年生の前期・後期に秘書検定等社会との接点が多の座学と資格取得を中止に実施。後期にインターンシップ科目を履修し、2月・3月に5日以上インターンシップに参加する。その後、2年生前期に事後発表会を全員が行います。また1年生(オフィス総合は全員)・教員・学長が発表会にも参加し成果を確認します。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している,5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	就業体験の前に社会人基礎力を測定することを目的とした、基礎チェックシートを用いて自己評価を行い、学生は就業体験前の自身の社会人基礎力を把握し、この結果を基に獲得すべき基礎力を明確にすると共に目標を立て、就業体験に取組む一連の過程を行う。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	自分が立てた課題や問題に対し、体験を通じて必要なスキルを獲得でき、体験後には、目標に対する成長を振り返る機会を設け、成果を発表し今後の学習に結びつけることができる。
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	1年生6月にクレベリン測定を実施、その時のメンタルや行動特性との比較を事前に行い、課題を作る際の参考にしている
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	マナー研修、電話対応、挨拶等基本的な社会人の身だしなみ確認。受け入れ先への希望を確認しながら企業先をマッチング。その際に、企業の3Cフレームでの研究、トラブルケース対応、課題が出たときの優先順位づけなど事前に確認。その後、事前訪問し業務の内容や詳細確認。事前に基礎力チェックシート
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	カウンセリングし、今後の学修に向けた課題を3つ設定する。教員に配り、各教員からの共通認識とし、支援方向の確認。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	現場に訪問し、本人の認識と上司の評価を知る。そして1個学生へのフィードバックする
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	今後の学習支援としてインターンシップⅡを希望者に実施。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	学事日程等で合わない場合、連続でなく数日後に実施するケースあり
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは現地での体験学習を5日連続を基本設計している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業との打ち合わせを事前に行い、プログラムはお互い検討し決定。愛知県中小企業家同友会への参加の場合は、「業務体験型」「課題解決型」「業務理解型」に分かれ学生の希望と求められる能力を加味し、本人の目標設定やそこへ進むプロセスを重視し、日々電話にてカウンセリング実施の場面もある
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.mizuho-c.ac.jp/amjc/images/syllabus2017.pdf
問い合わせ先	大学等名	愛知みずほ大学短期大学部
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	キャリア指導室長
	担当者氏名	中島 和成
	電話番号	052-882-1815
	メールアドレス	nakashima@aichi-mizuho.jp